

日本ジオパーク全国大会 十勝岳大会 参加報告書

中山洋子

1. 開催概要

- 開催日: 2025年9月27日(土)~28日(日)
- 開催地: 北海道・十勝岳ジオパーク
- 主催: 日本ジオパークネットワーク(JGN)

2. 参加のきっかけ

今年5月に幕張で開催された「JpGU(日本地球惑星科学連合大会)」に参加し、他地域のジオパーク関係者と交流する機会がありました。その際、全国にはそれぞれの自然や地質、地域文化を生かした多様な活動があることを知り、もっと深く学びたいと感じました。そのため、今回の全国大会に参加することを決めました。

また、以前、十勝岳ジオパークにある美瑛町から的小中学生を有珠山でガイドした際に、十勝岳の噴火について調べ、美瑛で発生した過去の火山災害をもとに防災についてお話ししたことがあります。そのとき、美瑛町の先生から美瑛での防災教育の取り組みを伺っていたため、実際に現地を訪れてみたいという思いがありました。十勝岳ジオパークを訪れるのは初めてでしたので、大会参加を機に、自主的に気になる場所の視察も行いました。

3. 参加目的

- 他地域のジオパークについて知識を深めること
- 他地域のジオパークの活動事例を知ること
- 自らの活動の参考となる学びを得ること

4. 基調講演

演題: 「宇宙創生から未来へ～これからの地球と私たち～」

講師: 佐治 晴夫 氏(理論物理学者・理学博士)

講演では、138億年前の宇宙の誕生から地球の成り立ち、そして生命の起源までを壮大なスケールで振り返りながら、地球と人類の関係を見つめ直す内容でした。

【感想】

佐治晴夫先生の講演を通して、宇宙や地球の成り立ちという難しいテーマを、とてもわかりやすく学ぶことができました。

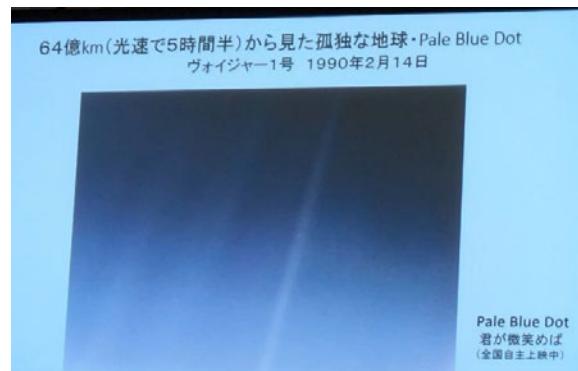
特に、「私たち人類は星のかけらである」という言葉が強く印象に残りました。人間の身体を構成する元素は、かつて星の内部で生まれたものであり、私たちは宇



宙とつながっている存在であるという考えに深く感動しました。

また、この広大な宇宙の中で、地球という小さな星に生きる私たちが、戦争などで争うのではなく、協力し合って地球の危機に向き合うべきだという先生の思いにも強く共感しました。

そして、最後に映し出された「Pale Blue Dot(孤独な地球)」の写真を見て、果てしない宇宙の中で地球がどれほどちっぽけで、そして尊い存在であるかを改めて感じ、胸が熱くなりました。



5. 分科会参加報告

テーマ:JGN 防災ワーキンググループ主催

「全国のジオパークで取り組んでいる防災活動」

～全国のジオパークで実践する自然関連プログラムの共有～

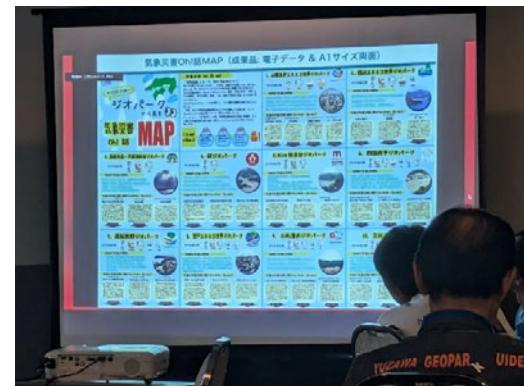
この分科会には全国各地のジオパークから約 60 名が参加し、各地域で行われている防災教育や取り組みの事例を共有しました。地域特有の自然環境や災害の歴史を踏まえた「ジオパークならではの自然災害へのアプローチ」について議論が行われました。

【印象に残った事例】

① 三好ジオパーク「Oh ! 話 Map」

「気象・気象災害」をテーマに、地域ごとの地形・地質・気候・災害の歴史を整理・可視化したマップです。地域の気象災害の共通点や違いを視覚的に理解できる点が非常に優れていると感じました。

以前、徳島大学の方々から「四国防災八十八話 Map」の取り組みをご紹介いただきましたが、このようにマップ化されると大変わかりやすく、地域の防災意識向上や教育活動にも活用できる便利なツールだと思いました。



② 大分豊後大野ジオパーク「学校での防災教育」

小学校教員による発表で、地域の地質的背景(阿蘇火山の火碎流に覆われた大地)を踏まえた防災学習の実践が紹介されました。児童がタブレットを使って地域の危険箇所を調査・記録し、「デジタル防災マップ」を作成する取り組みは、子どもたちが主体的に学ぶ良い機会になっており、地質と防災を結びつけた非常に優れた教育手法だと感じました。



6. ポスター・セッション・発表について

会場では、全国各地のジオパークにおける活動事例や、地域ガイドの取り組みなどがポスター形式で紹介されていました。それぞれの地域が持つ特色や課題、教育・観光・防災などへの多面的なアプローチが分かり、とても興味深く拝見・拝聴しました。

今回は、洞爺湖有珠火山マイスターの仲間たちもポスター発表や出店などでさまざまな活動を行っており、全国の舞台で自分たちの地域の取り組みが発信されていることをとても誇らしく感じました。

7. 現地視察報告

大会参加に合わせて、「十勝岳火山砂防情報センター(VOLGA)」を訪問しました。ここは、十勝岳ジオパークのストーリー「北海道の屋根 十勝岳ものがたり」を学べる拠点施設であり、十勝岳の火山活動や災害に関するさまざまな情報を発信しています。また、ワイヤーセンサーや振動センサー、監視カメラなどによって 24 時間体制で火山泥流の発生を監視しており、災害時には白金温泉地区の対策本部や避難所としても機能します。

展示室では、十勝岳の噴火記録や火山砂防事業に関する展示があり、火山のメカニズムや地域防災の取り組みについて学ぶことができました。

特に印象に残ったのは、施設内に置かれていた子ども向けの副読本です。火山噴火や自然、防災について非常にわかりやすくまとめられており、このような教材が有珠山にもあると良いと感じました。



8. まとめ・今後の活用

今回の全国大会を通して、ジオパークの活動は単に地質や自然を紹介するだけでなく、「人と自然の共生」や「防災」「教育」「地域文化の継承」といった幅広い分野に広がっていることを改めて実感しました。

また、十勝岳ジオパークでの現地視察を通して、火山と防災教育の連携の大切さを肌で感じました。今後は、今回学んだ他地域の実践や教材の工夫を参考にしながら、地域に根ざした防災教育や、魅力発信の活動を進めていきたいと思います。